

津高同窓会報

発行所

〒514-0042 津市新町3丁目1-1

津高等学校
同窓会事務局

TEL・FAX 059-229-7331
共立印刷株式会社

讃えんかなや我が津高



同窓会長 飯田 俊 司 (昭和36年卒)

会員の皆様には、平素より同窓会活動に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

近年各地で異常気象が続いておりますが、今年の夏は日本列島至る所で猛暑に見舞われ、加えて豪雨、突風などによる災害が多発しました。

皆様には如何お過ごしでしょうか。

本年の同窓会活動を振り返って見ますと、三月に第五回学年対抗ゴルフ大会(参加者169名)、五月に東京同窓会(出席者145名)、八月に本部(津)同窓会(出席者889名)、九月に名古屋同窓会

各事業の企画・運営にご尽力いただいた幹事、世話役の皆様には心よりお礼申し上げます。

さて、わが国は昨年十二月に発足した安倍政権の経済・財政政策(アベノミクス)の効果により、ようやく景気は回復しつつありますが、一方で解決困難な問題が山積しています。

震災復興、南海トラフ大地震、原発事故による放射能除染、社会保障制度、エネルギー政策などなど数え上げたらきりがありません。

二〇二〇年オリンピックの東京開催

決定は、日本の復活に向けた足掛かりになるのではと、明るい希望をもたらせてくれました。

昭和三十九年に東京オリンピックがアジアで初めて開催されましたが、その七年前の昭和三十三年は第二次世界大戦の敗戦の傷跡からようやく立ち直ってきた頃でありました。

翌年からは岩戸景気が始まり、平均10%を超える高度経済成長時代を迎え、所得の増加による消費ブームの到来により、白黒テレビの飛躍的な普及、スーパの出現、東京では地下鉄、モノレール、高速道路の建設、さらには東海道新幹線の開通などのインフラ整備も進みました。国民は「今日より明日、明日より明後日」と豊かな生活、明るい未来を夢見ることができました。

再び巡ってきたオリンピック開催を

ご挨拶	2
おぼろタオルと私	2
大津中の闘球部	3
津高との縁を思う	3
新聞とともに北へ北へ	4
「やんちゃ」のその後	5
我がブラジル	5
スペインに魅せられて	6
「青春の宝物」	7
有造塾に参加して	7
東京同窓会長に就任して	8
新「名古屋同窓会長」の弁	8
平成二十五年度	8
総会パーティーを終えて	8
第五回津高同窓会	9
学年対抗ゴルフに優勝して	9
津高校進路指導状況	9
第三回津高同窓会テニス大会	10
各地で同窓会開催	10
物故者	11
平成二十六年度同窓会パーティー	12



タイトル・書 工 藤 雅 俊 (昭和45年卒)
絵 伊 藤 清 和 (昭和46年卒)

機会に、高い技術力、勤勉、正直、規律、公徳心、おもてなしの心、思いやりなど日本人の長所を発揮すれば、日

本再生も可能になると、これからの七
年間期待を込めて見守っていきたく
思います。

ご挨拶

学校長 小野 芳孝



本校教育活動に様々なご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年四月、榎本和能校長の定年退職に伴いまして、三重県教育委員会事務局から着任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は、

着任以来、八月の同窓会総会、各地の同窓会などに出席させていただきました、多くの同窓生の方々にお会いさせてい

おぼろタオルと私

吉川

晴 (津中昭和20年四修)



オイルショックを境に次第に安定成長から先行き不透明の時代を迎え、タオル業界にも逆風が吹き始めていた。

そういつ中森田社長から次期代表者に私が指名されたことは、正に青天の霹靂だった。色々事由はあったにせよ、また前年より常務の役職にはついてはいたものの、私にその心構えは皆無といってよかった。しかし最後は、「命令だ」のひと言で全く未知の難題に取り組むことを余儀なくされたというのが私の本音である。昭和五十六年十一月、五十四歳であった。

折柄、国の所得倍増政策を皮切りに高度成長期を迎え、タオル業界は作れば売れる好景気に湧いていた。しかし、

ただ、江田島帰りの私には以前から

たどきました。その際、同窓生の皆さんが、異口同音に津高の素晴らしさを語られたり、同窓会総会で校歌を誇らかに歌われている姿を目にし、会員の皆様が母校をこよなく愛してみえることに深く感銘を受けるとともに、今後津高の歴史と伝統を大切にしながら、さらなる津高の発展のために尽力していこうと改めて思いました。

現在、本校は、校訓である「自主自律」と伝統である「文武両道」を基盤に据え、「高い知性と教養を持ったリーダーの育成」を使命とし、地域や日本、世界の様々な分野で活躍する人材の育

ひとつの疑問があった。タオル製造業は今の経営形態でよいのかということ。二十年近く勤務して、タオル経営の不採算性を如実に目の当たりにして感じたのは、労多くして功少なしの最たるものではないかということ。工業界全般にオートメ化・省力化され、目を見張る技術革新の大波の中で、タオル業界は織機の広巾化・高速化がせいぜいで、前時代的な作業工程が多すぎる。付加価値性が極端に低いのである。

光輝ある歴史と伝統を尊重し、また創業者の偉業遺徳並びにオーナー森田家に応じて、おぼろタオル創業100周年を目指すことを当面のわが信念としたが、このままでは到底覚束無いしこれが就任応諾以来の最大の悩みだった。平成元年二月、事務所新築竣工を機に、タオル別途事業として構想を練っ

成をめざし、生徒の高い志に基づく「進路」実現、部活動や学校行事などを通しての「人間力の向上」、教育活動全般を通しての「キャリア教育」の三兎を追うことを教職員と共有しながら、日々生徒の指導にあたっていました。

部活動では、三重県高等学校総合体育大会の学校対抗総合成績で男子6位、女子12位、ボート部、水泳部、のインターハイ出場をはじめ、文化系クラブでも書道部の全国高等学校総合文化祭長崎大会への出展、音楽部のNHK全国学校音楽コンクール東海北陸ブロック

でいた、津市大空襲で壊滅した広明町の旧本社工場跡地の立体駐車場化の社内検討をスタートさせた。しかし、これは全く不評だった。それだけの資金を投ずるのであれば、タオル生産工程の強化を計るべきとの意見が大半。止むなくひそかに経済界の各知己を頼りに入念に教導を乞い、わが進むべき道はこれしかないことと決断したことがあった。

平成三年三月二十八日、立体駐車場起工式。奥井建築設計事務所・西村建設(株)によるおぼろパーキング建設工事開始。記録的な雨天続きで工事は難渋したが、四階建・五層利用、平地部分を含めて二五〇台収容の立体駐車場は無事完成、同年十月一日晴れて供用開始に漕ぎつけることができた。

しかしこの年、わが国経済はバブルが崩壊、その後は急坂を転がるように

クコンクール出場、SSC(スーパーサイエンスクラブ)のSSH東海地区フェスタでの優秀賞受賞など大いに活躍してくれました。このように勉強は言いつに及ばず部活動でも頑張るといって津高の伝統が確実に在校生に引き継がれていると考えています。

会員の皆様におかれましては、今後とも母校に対するご支援をお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

下降の一途を辿り、タオル業界はかつてない大水河期に直面、出口のないトンネルに入る。大手タオル問屋の経営破綻が続出し、メーカーにも波及、県内タオルにおいても最大手モトロタオルの廃業について、破産・撤退企業が続出、地場産業としての三重県タオルは消滅する仕儀となった。

しかし、この間、おぼろパーキングは着実な利用レベルを堅持して、会社本体の危機的状況を完全にカバーした。顧客筋の度重なる経営破綻による巨額の回収不能債権の処理に併せて赤字続きの本体事業を力強くアト押しした。

そして平成二十年、おぼろタオルは無事創業100周年を迎えることが出来、社内はともどもこれを多とし合ったのであった。

(おぼろタオル(株)取締役相談役)

だい 大津中の闘球部

垣野啓

一 (津中昭和20年④卒)



当時、校歌とは別に在校生が声をか
らして熱唱した「大津中行進歌」の一
番の歌詞です。大東亜戦争(太平洋戦
争)の真最中とて土気鼓舞のため、歌
詞は教練、作曲は国漢の先生がつくり
ました。敵性語と云うことで英語は教
科からはずれ、現役陸軍将校が配属
されての教練、それに修練(修身、勤
労、体練を一緒にしたような科目)と
いう授業が必須となりました。体育祭
の部活も、野球・テニス・サッカー等

は米英渡来を理由に廃部、代わって
銃剣道部、グライダー部などが人気と
なっていました。

唯一、ラグビー部はその競技内容が
關志満々の肉弾戦で、戦時にふさわし
いと残されましたが、名称は「闘球部」
に変えられてしまいました。

正に、この写真は『大津中の闘球部』
の英姿なのです。もつジャージのユニ
フォームやスパイクは品切れとなり、
通常の体操衣、上半身は裸に地下足袋
で長円形のボールを追っかけの練習で
した。写真の中の同級生には、進
功(住友製薬社長)、加藤 昭(伊勢
日赤病院長)、太田典郎(三重県職労
委員長)、芳森明敏(志摩浜島旅館

「太平洋」主人)の諸君などが居ます。
皆、故人となりましたが……懐かしい
紅顔の級友です。

私たち津中第62回生は、現在84〜85
歳です。昭和十六年四月入校、同二十
年三月に戦時特例として明治以来の五
年生中学校を四年で繰上げ卒業となり
ました。その津中生活は殆ど大東亜戦
争の期間と同じと言えます。津中
歴史の中でも珍しい「戦争の申し子」
のような学年です。卒業式では二四四
名が小林徳太郎校長(第14代)から卒
業証書を授与されました。戦たけなわ
在学中に陸海軍人に志願して行くこと
が勧奨され、多くの学友が学窓を旅立
ちましたが、その友はここに入って

いません。私もその一人です。

私たち昭和一行台前半の出生者は、
非常にハングリー精神が旺盛で心身の
健全に努力しています。今でも卒業時
の約半数が元気に後期高齢期を生き抜
いています。「割り勘負け」をもじっ
て「香簀負け」という新造語を作りま
したが、長生きする程、同級生が少な
くなり香簀数が減って出し入り勘定で
損という計算の笑話です。

三年生からは学徒動員といつて、
農村の作業や工場での戦闘機づくりに
引つ張られ、しかも四年で卒業、本当
に学習時間が少ないのに旧制中学校卒
業の資格が与えられた稀有な学年だと
思えます。(伊勢商工会議所相談役)

津高とのご縁を思う

横橋 (藤井) 孝子 (昭和27年卒)



桜の制定を始め学校の基礎作りに努め、
三十五年に第一回卒業式を行いました。
その時から毎年の卒業生に「訓諭十則」
と称する 贈る言葉 を与えて、新時
代の女性の在り方と女子教育の重要性
を説いた人物と聞かされており、遺品
の中にも大切に保管されていたのには
驚きました。恐らく自分の家族の女性
にも知らしめたかったのでありまし
ょう。三十八年から県立第四中学校(現・
宇治山田高校)の二代目校長として九
年間奉職した後、大正三年に大連に創

設された神明女学校(関東都府高等
女学校)の初代校長に就任しました。
しかし外地での新設校の基礎作りと発
展に取り組んでいた最中の大正六年六
月に肺炎で逝去致しました。常に学校・
生徒・父兄の連携に心して、第四中学
では校友会誌「校友」を、神明女学校
では「大和撫子」を出しており、国会
図書館蔵の創立25周年記念号の「大和
撫子」には学校の沿革や祖父の関連記
事が見られました。

父・藤井夏雄は長藏の長男で、大正
十四年から昭和十七年三月まで県立津
中学校で物理・数学の教師を勤め、西
新町の自宅から何時も自転車通勤でし
た。在職中は弓道部・庭球部・野球部
の顧問も務め趣味と実益を兼ねて写真
をよみ撮っていました。撮影から現像・
焼き付けも自宅の暗室で楽しんでい

ここに一枚のセピア色の白黒写真が
あります。昭和十八年(一九四三)の
三重県立津中学校闘球部の姿です。黒
色の制帽制服が上級生の五・四年、戦
闘帽にカーキ色の服が私たち三年生で
す。私たちの入学時から日本の中等学
校全部が政府の方針で、この姿になり
ました。ちなみに、私は最前列右端で
地下足袋、ゲートル巻きです。

中央の二先生は、正副部長をつとめ
ていただいた水町(地理)、増田(数
学)の両教諭です。

“西には高き経ヶ峯

東に清き伊勢の海

津市西郊の一郭は

これぞ我等が大津中”



昭和九年に西新町で生まれた私は十七年九月附属小学校三年の二学期に東京に、十九年に大阪に移り、二十一年四月に府立寢屋川高女に入学しました。二十二年三月には食糧難を逃れて母の里の松阪市に転居し、父の勧めで姉と共に津高女の編入試験に受かり入学が出来た時は嬉しくて舞い上がりました。新松阪駅から阿漕浦駅迄の満員電車の通学も苦にはならず、附属小

菊本良治（昭和46年卒）



私は一九七九（昭和五十四）年に毎日新聞社に入社。記者として仙台を振り出しに、東京、大阪、名古屋各本社のほか沖縄にも勤務しました。教育関係担当、制作技術局などを経たあと、二〇〇八（平成二十年）に青森のグループ新聞印刷会社、今年六月から北海道の同印刷会社に移りました。十三回目の転勤です。

記者でした。集まったニュースをどう編集するか——地味ではありますが、その権限を唯一与えられた職場です。記事を読み、扱いを決め、見出しを付けて紙面を組み上げます。

で受けた補習授業は一体何だったのかと満たされぬ思いのままの三年間でした。幸いにもそこで出会った先生方の中でも物理の小林尚志先生、生物の小竹先生、国語の花見龍堂先生、英語の小倉基弘先生など津中にご縁の深い先生方に励まされ、挫折を乗り越えて無事二十七年に卒業出来ましたことは大

きな感謝です。しかし、やはり祖父と父が奉職し、津中の卒業生である戦死した二人の叔父（母の弟）がいる私の津高への思いは、正に「ああ母校」であり、私の在籍期間は一年二カ月と短いものでしたが、私の心の中にある温かい思いは生涯消えないものと信じております。

紹介しましょう。夕刊番の編集デスクは午前八時ごろ出社。社会部、外信部など各出稿部デスクと下打ち合わせをし、紙面イメージを膨らませてから九時過ぎの編集デスク会に臨みます。各部のメニューを聞いたうえで、社会面などの記事扱い、割り振りをその場で決定します。

全国紙の夕刊は各社ともほぼ三版（三種類）制です。起（し）版の降版（紙面OK）時間は十一時半ごろ。各社からの出稿を各面編集担当者が急がせるものの、降版三十分前になっても一行も出ないことも多々あります。その時、冷や汗が編集者の背中にスーッと流れます。編集局は朝市のような熱気に包まれた中で降版。すぐに次版作業に移り、午後一時半ごろ最終版を降版して夕刊作業は終わります。

朝刊は担当者が交代。デスクは午後二時過ぎに出社し、夕刊担当者から引き継ぎます。十数ページの夕刊に比べ、朝刊は三十数ページ。編集局の総勢は二百人近くに膨れ上がります。

ある日の東京本社編集局の様子をこ

また、毎日新聞の場合、東京本社版

藤井 長藏

調　査

一婦女子身體ノ健康ハ當ノ一身一家ノ幸福ニ至マラズゴロ實ニ國家
ノ福祿ナリト覺悟セラルル也

一需要ヲ察ヘテ行フ後英メスルヨリ婦女ノ主義ナルものナリ曰書
心ヲモツニ謂フカキル也

一學問ヲ授ケル一生ヲ過ラザ學問コトモモノト覺悟シ當ノ自習ヲ勤メ
テ日新ノ學藝ヲ使レザル様ニ心掛テタル也

一他人トノ交際ハ感ホメテ貴ノ慣例ヲ遵ヘルベク世ニ新奇ヲ馳セテ
世人ノ皆稱テ受ケル様ニ心掛テタル也

一初婚ノ婦女ノ美徳ナレバ善隣諸國雄々如クテ一時ハ組合
多キルベシ然レバ剛柔ヲ兼テ有テ心懸肝關ナリト譽れキルベシ

一戀愛ノ貞操トハコレ婦女ノ生命ナリ高ゾテ言行ハ皆コレニ基ジテ
シテイテ期セタル也

一婦女ハ通商英米家ノ内ワチ立チ斷テエコレ取リモテサデ國ノ
仕事ノ一部ヲ分擔スルモノナリト確信セタル也

一最初ヨリ堅ク天ニ任セテ面ビタ又事定マリタル後ハコレヲ悔ミ
モ思ヒテ何事モ自力ナル運ヂタルモノト認メ其ノ先ヤテ時ノ運
ミヲオボシタル也

一衣食上進退コレ觀マル場合アラバ假令自身ヲ其ノ事ノ關係ナキ也
人ノ地位ノ置キ代ヘテ静養成息セラルベシ

一吾等一身ハ自己家族社會國家ノ四ツノ方面ニ對シテ各欠キノ點ヲ
テカルベシト知ルベシナク

今日調査ノ結果ハ以上ノ事實ヲ數證セザンテナク獨リコレヲ總括スル
ハ一般必らず難シカラシム

だけでも地域別に九版(種類)。さらに、北海道、名古屋の紙面も東京で制作しますから、その作業は煩雑かつ膨大な量となります。

重大ニュースが飛び込んできたら、それを掲載するために各面にまたがる大幅な記事移動が発生。またもや編集局は騒然とした空気に包まれるのです。

翌日午前二時ごろまで作業が続き、そのあとはささやかな夜宴となります。写真(前列右から三人目が筆者)は二〇〇六(平成十八)年元日の編集局内。大晦日の作業を終え、くつろいでいる様子がかがえます。未明まで紙面の出来を語り合ったものです。

多多くの事件、事故の紙面編集に携わりました。日航ジャンボ機墜落事故(一九八五年八月十二日)は編集者駆け出しの大阪本社で担当。午後七時のNHKニュースが終わるころ、あの松平定知アナが一報を緊張した声で繰り返し伝えていたのがいまでも耳に残っています。

（毎日新聞北海道センター）

る。したがって地下水汚染は飲料原水の水質劣化を意味するとともに、地下水が流出するサンゴの海を汚濁させる。宮古島などの海は透明度がそれなりに高く、一見健全そうに見えるが、実はサンゴ礁生態系は相当疲弊しており、もはや一九六〇〜七〇年代の面影はななく、その原因は陸由来の富栄養物質であるとの見方が近年強い。宮古島では化学肥料と畜産廃棄物がその主体となっている。

「やんちゃ」のその後

中西 康 博 (昭和53年卒)



を学んだ。

修士課程終了後、青年海外協力隊に参加した。派遣国はパプアニューギニア。同国に沙漠はない。しかしいずれ「沙漠漬けの人生」になるのだから、

津高生時、太藁やんちゃで意欲であつたことから、先生方や同級生たちに随分迷惑をかけた。三年次にはクラス担当の小田海平先生から「君は大学に行く気はあるのか」と叱咤されつつ、何とか大学に進学した。問題意識はそれなりにあったつもりで、当時、ローマクラブの「成長の限界」(一九七〇年)に衝撃を受け、食料危機が来ようとも何らか食料を生産できる現場にいたいと思った。そこで、沙漠で食料が生産できるよつになればと考え、大学卒業後、当時から沙漠研究のメッカとされた鳥取大学の大学院に進学し、土壌学

若いうちに湿潤熱帯を経験しておこうと思った。帰国時に初の沙漠体験をすべく、オーストラリアの大サンデー沙漠に立ち寄った。そこで見たのは、ケイ酸の粒に鉄分がわずかにこびりついた、キラキラ赤白く光る砂ばかりが見渡す限りに広がる、ジリジリと熱く乾ききった荒原であった。土壌学をわずかなりとも学んだ者にこの風景はとても厳しく映り、沙漠での食料生産に対する想いを頓挫させた。

帰国後、恩師の誘いを受け、現在の職を得た。三年間の東京勤務の後、本学の農場施設のある沖縄宮古島に異動

我がブラジル

山本 昌 幸 (昭和60年卒)

一九八五年卒業の山本昌幸と申します。この度、同窓会報に向けブラジル生活について書かせていただきます。といっても小生今年の一月一日付の赴任のため、それほど深いところまでは残念ながら無理であることをお断りしておきます。

生活しているサンパウロには、リベルダージという東洋人街や駐在員の多く暮らすジャルジンプウリスタなどの地域に日本食レストランがたくさんあり、一見食生活には苦勞なさそうですが、実際日本と同じく駐在員の多いタイのバンコクと比べると味のレベルと

しては「なんちゃってラーメン」だとかに甘んじているのが現実です。特にラーメン、うどん、そばの麺類に至っては自分が作っても、もっとおいしくできるんじゃないかと思ったりする時があります。こつこつ食環境にしていると逆に積極的に自炊をするようになり、日本から送った炊飯器が届いて鍋でご飯を炊くと、こんなにおいしいんだと、いつかを初めて体感するといつこともできました。

日本食はこのよう有様ですが、やはりブラジルの自慢料理はシュハスコと呼ばれる牛焼肉です。しかし、こ

人類の近代における経済成長が、自然資本の「元本」を食いつぶすことにより遂行されてきたとするならば、それ

を修復し、その「利息」により生活するという本来の姿勢にいち早く戻す努力をすることが、今世紀重要課題のひとつであろう。私たちの生命は、陸と海で生産される食料に依存しているといふ厳然たる事実がある。一昨年東京勤務に戻ってから、熱帯・亜熱帯の現場状況に基づき、健全で持続的な食料生産に関わることをテーマとしているが、その原体験は、少年期に遊び場であった白子の浜の、公害による劇的で悲なる様相の変化ではなかったのかと近年思っている。

(東京農業大学 准教授)



でも日本の焼き肉の霜降り和牛のような肉ではなく、基本的には赤身のところを少しレア気味に焼いていたのでブラジル流です。シュハスコのレストランはどこも固定料金で食べ放題なのでガンガン食べたいところですが、

あにく四十五歳を過ぎると昔のようには食べられないのが少し残念です。

食に続いてブラジル人の人柄ですが、私の周りにいる日系の人たちは割におとなしい人が多く、逆にイタリア系の人たちはみんな大らかで大声で話します。小生の部下の彼女はよく会社で電話をかけてきますが、ポルトガル語がまだわからない私でも電話の向こうで話している声をはっきり聞き取れるくらいの声で話をしているのはあきれています。

しかし、いざ家内が急に病院に行か

なければいけない時などは病院を探してくれたり、通訳をしてくれたりと本当に友達を大切にする人たちです。

もうひとつブラジルのいいところとしては、スケールの大きな自然です。前回の休暇にはアマゾンジャングルツアーに参加してきました。泊まったバングローの枕元にカエルが落ちてきて絶叫した家内も、ピラニア釣りをしている時に見つけた黄色いモルフォ蝶の虜になってしまい、私の一眼レフを離そうとしなかったくらいで、全ての人を夢中にさせる何かがブラジルの自然

スペインに魅せられて

瀧本 雅彦(昭和63年卒)



スペインとの出会いは、ピカソでした。美術の教科書で見たゲルニカの絵にとっても惹きつけられました。ゲルニカに会うためスペインへ一カ月の旅に出たのが早稲田大学四年の一九九一年九月。当時はスペインでフランク独裁

政権が終わり、ようやくニューヨーク近代美術館からゲルニカがスペイン帰還を果たしプラド美術館の別館で唯一

にはあると思います。

先日、二〇二〇年の東京オリンピックが決まった理由として「東京には他の候補地になんか安全がある」という言葉を耳にしました。あにく、このブラジルでは東京の400倍の確率で強盗が発生するといわれています。でも、そういう危険をうまくやり過しながら仲のいい友達とうまい肉を食べ、サッカーと自然をこよなく愛するブラジル人たちとこれからワールドカップをしてオリンピックと一緒に楽しみたいと思います。(株本田技術研究所)

人たちが楽しそうに暮らすその笑顔が理由でした。どうも日本人よりスペイン人の方が幸せそう！なぜだ？そのままスペインへ渡りたいとはやる気持ち、学生期に感じる一種の逃避ではないかと自分に問いかけ、思いが変わらなければと自分の中のタイムカプセルにしまい込み、JTへ入社し八年。自分の中で一区切りが付いた一九九九年「ついに！」とエールをくれた学生時代からの友人たちと「ほんとに？」とあつげに取られながらも温かく送り出してくれた会社の人たちに感謝しながら、サラリーマン生活を卒業。

まずは祖国日本の良さを感じようと青春18切符を持って日本漫遊。やっぱり日本も最高だ。日本人は一生懸命生きている。もっと幸せになれる。そして九月に、ボストンバックに身の回りのものを詰めて単身スペインはマラガ

へ向かいました。大好きなピカソが生まれた港町だ、ここなら答えを教えてくれるだろうと。しかし、旅行では見ることのなかったスペインの顔に戸惑いや落胆も。たまたま陽気で開放的だけじゃない、差別も偏見も悩みもある。もかく自分に勇気、笑顔をくれて歩ませてくれたのは、スペイン人の友人たち。友人たちから学んだ幸せの秘訣は、比較をしないことでした。競争の先に何があるのか。比べてもきりが無い。努力はする、でも自分は自分。今の自分を「楽しむ」です。

二〇〇〇年六月、旅して見つけたものの、生活しながら感じたことを書き記し、スペイン発情報サイトをオープン。リアルタイムのスペインを伝えながら、スペイン好きの人たちへのお手伝いをしていました。二〇〇三年一月「スペインの笑顔」を伝える場としてスペインバルを再現しようと東京三田で開業

して十一年目を迎えております。スペインとは自分が正直になれる。顔が思わすほころぶ笑顔の場所です。その笑顔を増やしたい。昨今人との接し方が分らない人が増えているといわれています。人と人が向き合うコミュニケーションする社交の場がスペインのバルです。スペインの食を中心とした文化、歴史をスペインバルにて発信して、コミュニケーションすることにより、日本人の心の中に温かいモノを伝えたいと思っています。現在はスペインを愛する仲間と南相馬支援コルポラシオンというグループを作り、東日本大震災、福島原発に今も苦しむ南相馬にある仮設住宅でバエリヤの炊き出しとフラメンコ舞踊を年一回お届けしております。仮設がなくなる日まで続けていこうと思っています。

(カサデマチャ オーナー、南相馬支援コルポラシオン事務局長)

津高同窓会名簿

「あゝ母校」発刊のお知らせ

創立百三十五周年記念事業の一環として、津高同窓会名簿を発行します。

それに際しまして、同窓会が委託しました株式会社「サルト」(姫路市)から、名簿作成の調査カードを四月から皆様にお送り致しますのでご協力をお願い致します。

返信先は「津市新町三一―一 津高同窓会宛」です。

それ以外の宛先の郵送物等は一切津高同窓会とは関係がありませんので、くれぐれもご注意ください！

「青春の宝物」

眞田 佳 織 (平成15年卒)



平成15年卒の眞田佳織です。

現在、NHK広島放送局のリポーターとして、広島中を飛び回っています。広島伝統の職人技を間近で見せて貰ったり、朝三時からイワシ漁に同行させて貰ったり、生のビーマンをがぶりと食べたりと、「へえ〜」「ほっ。」「キャー〜」と、それはそれは濃い毎日です。体力勝負の仕事ですが、楽しんで、仕方ありません。津高校での思い出は、数え切れないほどあります。

陸上部で真っ黒になるまで走ったり、レクリエーション大会や文化祭でクラスを盛り上げたが為に、三年連続室長に立候補したり。

夏の暑さに参って、「教室にクーラーを設置して欲しい!」と校長室に40人分の署名を持って行ったこともありました。

受験勉強も大切な思い出です。

何度も何度もやってきたテスト。当時は「この間も受けたやん!」とブン

ブンしていました。あやうく、期日までに何を仕上げるという修行をしたからこそ、就活を乗り越えられたり、今の仕事が出来ているような気がします。

昔のスケジュール帳には「テスト二

週間前」「テスト一週間前」のマーク。就活中には「エントリーシート二週間前」「エントリーシート一週間前」、今のスケジュール帳には「オンエア二週間前」「オンエア一週間前」。きつとずっと書き続けます。

そして何より感謝したいのが、「キャスターになるために東京の大学に行きたい!」と言いつける私をしつかり支えてくれた、津高の「皆」の存在です。

先生は、「お前ならできる!」と思

◆有造塾が開催されました!

第 3 回

日時 平成25年9月30日(月) 13時10分〜15時

場所 津高等学校理科棟4階 地学室

〈演題〉―21世紀を生きる主人公であるべき君たちへ―

―研究者にならないか―

〈講師〉黒 澤 良 和 氏

(昭和41年卒・藤田保健衛生大学学長)

有造塾に参加して

3年 黒 田 菜津美

私が今回の講演で最も印象的だったのは、「科学者はエゴイスティックの成功者である」という結論でした。人間は本来、自分本位の生き物で、それを覆い隠して生きていかなければならないのが普通である。ただ唯一、科学者だけがエゴをさらけ出すことが許される職業であるというところですね。

これを聞くと、科学者として成功する人は特殊な人なのだとつい考えてしま

います。でも、黒澤教授は、「誰にでもチャンスはある。必要なのはさままじい好奇心と競争心を持つことだ。」という何を度々もおっしゃっていました。

私は医師になり、地域医療に携わりたいという夢があります。しかし、模試の結果が思うように上がらず、自分の進路に対して不安でいっぱいでした。気づけば、校内順位の悪さに落ち込む

いきり背中を押してくれ、どんな友人も、勉強が苦手な私に「教えるところも勉強になるから」と時間を削って教えてくれました。やさしい。

進学校のな。勉強第一なはずなのに。こんなに人間くさい毎日を送れた津高が大好きです。

取材中、心を開いてくれた相手は、とても素敵な表情をしてくれます。それは笑えばかりでなくて、肩が下がって今にも泣きそうになったり、声のボリュームが倍になって怒ったり。その



ばかりで、みんなよりも良い点を取りたいと思う気持ちが湧いてこなくなっていました。実際に過疎地域を訪れ、そこで働く医師の姿に魅了された頃のわくわくした気持ちは薄れ、きつとどんな道に進んでも楽しいんだろうなと漠然と考えている私には、好奇心や競争心はわずかにも残っていないかったように思います。黒澤教授は、「ほとん

瞬間に触れたとき、この仕事をやっていて良かったと思うのです。だってとーっても人間くさいんですもの。「なんて生き活きて生きてらっしゃるのだろう。」と、励まされ、嬉しくなります。

これからも、津高で培った根性、もらった愛情を大切に、日々精進していこうと思います。毎日全力疾走です。(NHK広島放送局 報道番組リポーター)



どの人は、しくじらない生き方をしようとする。」と言われました。まさに私もそのうちの一人でした。いろんな理由をつけて妥協案ばかり考えていました。

この講演をお聞きして、しくじるのを覚悟で突き進んでみるのもいいかなと思つようになっていた自分に驚いています。

東京同窓会長に就任して



田村 正衛(昭和41年卒)

比して顧みれば誠に浅学非才の身ではありますが、事務局メンバーも一新され、共々、更なる東京同窓会発展のために尽力して参る所存であります。

本年五月、図らずも東京同窓会の会長をお引き受けることとなりました。谷口 武前会長は昭和三十年の卒業、

私も昭和41年卒業生は、いわゆる団塊の世代の第一陣として14クラス・743名の新入生が校門をくぐったのであります。入学式直前に火災があり校舎

の一部が焼失、仮設と体育館の間仕切り教室が、高校生活のスタートでした。学校で学ぶ以上は、学業成績が優秀な方が望ましいとも言えますが、それと同じくらいその生涯において、いつ誰と出会い、どういつ付き合いをするかということも重要です。高校生活は小学校・中学校の頃より、その人にとってより大切な時期でしょう。

古希に近づき、津高同窓生という得難い繋がりを改めて貴重なものと感じて居ます。

新「名古屋同窓会長」の弁



富島 照男(昭和28年卒)

世話役をつとめさせて頂いています。

住所又は勤務先が愛知県にある千数百名の方が会員で、津まで電車で五〇分の「至近距離」の悩みで、同窓会の運営には、様々な工夫が求められています。毎年九月の総会には、約150名の参加がありますが、より多くの方々へ呼びかけるため「学年幹事制」を採用して活性化につとめています。

又、総会もより愉しく有意義なものとするため、発足以来二つの企画を続けています。

一つは「同窓生によるミニ講演会」です。医学・文学・経済など多方面で

活躍している同窓生を講師とする四〇分程度のスピーチです。最近、クラシックピアノ・シャンソン・ジャズなどの現役プレーヤーによる「ミニ演奏会」が好評です。

もう一つは、「テーブル対抗〇×合戦」です。津高や津市の歴史などをテーマとする「難問」をめぐって、白熱した団体戦で盛り上がっています。入賞チームには豪華な「スズケン賞」が用意されています。

参加者の固定化、高齢化など同窓会の運営には課題がいっぱいですが、何はともあれ参加される方々に、「母校のぬくもりとつながり」を感じて頂ける会となるよう、もう一工夫を試みたいと考えています。

平成二十五年度総会・パーティーを終えて

実行委員会副委員長 野田 直裕(平成4年卒)

本年も八月三日、津センターパレスホールと都ホテルにて平成二十五年度陳川・三重桜・津高同窓会総会・パーティーが「讃えんかなや我が津高」全ての同窓生にエールを送る」をテーマに、史上最多89名の同窓生のご参集を賜り盛大に開催されました。

総会に引き続き、パーティーは津高現役生によるクラブパフォーマンス(吹奏楽・サッカー・書道・ラゲビー・女子テニス)で幕を開け、乾杯の後はサムライブルーのTシャツとバンダナで衣装を揃えた幹事スタッフが「おもてなし」を心掛け配膳し、ご歓談の時間をたっぷり設けて和やかな雰囲気でご機嫌に会食をお楽しみ頂きました。

そして川原林実行委員長を団長とする平均年齢四十七歳の応援団の登場で会場のボルテージは最高潮に達し、出陣歌・応援歌・校歌・凱歌の演舞で熱いエールを交わした後、最後は全員で校歌を声高らかに斉唱し母校を讃え、来年の再会を約束してお開きとなりました。

今回初めて出席した若い同窓生の皆様から、一八・八十八歳までの卒業生が一同に集う津高同窓会への驚嘆と、出席して本当に良かったという感動の

声を聞く事ができ大変嬉しく思いました。脈々と受け継がれてきたこの素晴らしい津高の伝統をさらに育むべく、今後一人でも多くの同窓生のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

運営にあたり幹事学年として至らぬ点が多々あったと存じますが、同窓生の皆様のご協力により無事総会・パーティーを終える事が出来ました。ここに厚くお礼申し上げますとともに次年度のご盛会を祈念し報告と致します。



第五回津高同窓会 学年対抗ゴルフに優勝して

岡村 伸 博 (昭和45年卒)

平成二十五年度開催の津高同窓会学年対抗ゴルフに「個人及び団体戦に優勝」しました昭和45年卒の岡村と申します。参加者を代表し、皆様に紙面をお借りしてご報告をいたします。

事務局からの依頼で毎年十人前後が参加し、特に優勝しようとの目標もなく楽しくプレイをしておりました。

今年は、Aクラス(上手)とBクラス(その他)に分けて参加いたしました(そういえば高校時代も英数はA・Bの能力別になっていました)。

プレイ中は世間話をしながら適当に楽しんでラウンドを終了、パーティーも早く終わって二次会へ行くことを考えていましたところ、なんと団体優勝が45年卒に、さらに驚いたことに私が個人優勝となってしまいました。

内容を検証しますとどうもBクラス3名が優勝に寄与していたとのこと、なにこともやってみなければわからないと切に思いました。

私の成績も優勝というものの、グロスは98、確かハンディが32だったと思います。

ラッキーの一言でした。

最後に、我ら昭和45年卒参加者の紹介をしておきます。

(「Aクラス」) 田中寛子(元ANNA)、

田島和洋(泌尿器科開業医)、沼田政行(元三交不動産)、小井戸長雄(元三交旅行)
(「Bクラス」) 橋本喜久男(元津市役所、田中義久(元津消防署)、紀平 等(逢春園施設長)、岡村伸博(元百五銀行) 松ヶ谷光廣(元四日市工業校長)

津高校進路指導状況

進路指導部 上村 和 弘 (昭和59年卒)

津高校が担う使命は二十年後三十年後の「高い知性と教養をもったリーダー」を育成することだと思います。その実現のために「三魂を追う」教育に力を入れています。つまり①基礎学習②学校生活部活動・行事 ③キャリア教育の三つを妥協せずやりぬくことで、これからの不透明な世の中においても、自立してキャリアを創り上げていける「生きる力」をつけてほしいと願っています。よって、生徒たちには大学受験がゴールではなく、自分の「志」をまず大切にしようと呼んでいます。高校生の三年間は大人になってからの二十年分くらいに匹敵する「濃い」期間です。学校という小さな社会の中で、様々な個性を持ったメンバーと「濃い」活動をする中で、生き方や在り方の

の9名。その他、同窓会事務局の佐々木とし子も同級生です。
いただきました賞金は10名で均等割りし、当日の酒代にきえてしまいました。

昭和45年卒は春(五月)、秋(十一月)にゴルフコンペを10組程度で開催しております。これから時間が余りますので同級生の方のたくさんのご参加をお待ちしております。(岡村宛ご連絡ください)
(昭和45年代表幹事 岡村伸博)

基礎となる土台を大きくして卒業してほしいというのが私たちの願いです。日々の授業や文化祭・体育祭などの学校行事、受験に対する取組等すべての教育活動をもキャリア教育の一環として位置付けており、生徒たちはそれぞれ一つ一つに自覚と目的意識をもって自主的に取り組んでいます。

本校の進路指導では、「志」のもととなる生徒自らの望ましい人生観・職業観の形成のため、生徒が主体的に体験し考える多様な機会を提供することの一つの柱としています。昨年度には地域の事業所の協力を得てジョブシャドウイング(仕事実習体験)も実施いたしました。同窓生の皆様にはこれらの取組の際に一方ならぬ尽力・ご協力をいただいております。改めてお

礼申し上げます。

また、生徒の幅広い進路指導の実現を保障するために、質の高い学力の構築を目指して、学習指導の充実にも鋭意取り組んでいます。昨年度よりは一日十時間の学習を体験するという目的で希望者対象の春休み受験生体感合宿も実施いたしました。

今春の進学状況については、国公立合格者241名、難関大合格者70名+国公立医学部医学科11名=合計81名という結果を残してくれました。高い「志」を持った彼らが日本や地域の中心的存在となって活躍することを願ってやみません。現状に甘んじることなく、一人ひとりの生徒が自分の個性を大切に伸ばしていけるよう、より良い進路指導に一層取り組んでまいります。今後ともご指導よろしく願います。

(大学合格者数)
(2013年6月1日現在)

	国立	公立	私立	短大
(2013) H25年	207	34	535	14
(2012) H24年	237	26	762	21
(2011) H23年	186	43	668	8
(2010) H22年	221	39	764	6
(2009) H21年	210	34	557	11

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
(2013) H25年	10	1	2	1	4	1		
(2012) H24年	6	1	0	0	5	1		
(2011) H23年	8	3	4	0	2	2		
(2010) H22年	8	2	1	0	4	2		
(2009) H21年	16	7	1	0	5	2		

東工大	東京大	横国大	静岡大	金沢大	信州大	名古屋大	名古屋大	名古屋大	三重大	京大	大阪府立	大阪府立	神奈川	奈良大	広島大	九州大	慶応大	早稲田	上智大	青山学院	中央大	東京理大	日本大	明治大	法政大	立教大	南山大	名城大	皇學館	龍谷大	京都産業	同志社	近畿大	立命館	関西大	関西学院		
0	2	4	8	3	6	8	6	4	75	1	15	17	5	5	12	2	2	3	17	5	3	7	18	2	17	8	8	25	15	27	6	14	59	21	70	26	18	
1	0	5	4	7	4	17	13	4	75	0	13	26	3	4	14	3	4	1	11	2	5	14	11	6	17	13	10	56	32	23	16	3	88	37	101	30	18	
1	0	1	6	6	3	14	9	7	57	1	10	18	4	5	9	0	5	1	12	17	5	3	8	13	4	11	5	3	46	34	31	20	7	75	11	91	44	23
2	2	3	2	12	5	16	4	1	51	3	15	32	5	4	12	3	4	0	19	20	4	5	22	22	3	31	9	5	50	32	24	10	3	98	27	111	47	27
0	1	1	5	10	6	19	3	5	55	2	9	29	8	1	6	1	6	2	16	20	5	6	18	20	2	15	7	4	39	26	20	6	4	47	18	59	29	24

第三回津高同窓会テニス大会

2年 山下 拓也 (男子キャプテン)

十月十三日(日) 第三回津高同窓会テニス大会が、津高のテニスコートにて開催されました。生徒22名、OBの方は47名の参加で、いつもとは一味違ったテニスになりました。

昭和二十年卒業の方から、現役の高校生までが、チームを組んで団体戦を行いました。幅広い世代の人たちが共に戦うという事は、普段ではなかなかできないことであるため、とても充実した一日となりました。

いつも自分たちが部活動で使用しているコートにOBの方と生徒が共にプ



レーする光景に、初めはいつもとは違うというのを感じましたが、少し時間が経つと、それはとても自然な光景に見えました。その時、僕は歴史というのを感じました。OBの方と自分たちとを結びつけるのは「津高」と「テニス」だけです。しかし、確かにOBの方たちとつながる何かがある。それはやはり、今日の前にいる人たちが、自分たちと同じように津高のテニスコートで汗をかき、テニスをしてきたという歴史だと感じました。そして、自分たちもまた同じようにその歴史の中で、新しい津高校テニス部という歴史を作っているのだと感じました。

試合内容としては、みなさん勝ちにこだわっており、優勝したチームは、生川介彦(昭和29年卒)、川出浩司(昭和45年卒)、吉田公英(昭和49年卒)、山下晃論(平成11年卒)、松岡明美(昭和51年卒)、井上幸子(昭和45年卒)、奥野史郎(二年生)、大西航介(二年生)、東條夏子(二年生)の皆さんで、OBの方と生徒が一体となった、良い雰囲気でした。

OBの方ともたくさんお話をさせていただき、とても良い機会となりました。運営して下さった先生、OBの方、また関係者の皆さんに、このような機会を設けていただいたことに感謝

します。また、今後も、自分たちがOBとなっても、このようなテニス大会

各地で同窓会開催

東京同窓会

本年度東京同窓会は、五月二十五日(土)霞ヶ関ビルの東海大学交友会館で開催(出席者145名)。谷口 武前会長(昭和30年卒)から、「八年間のご支援ご協力に感謝します」との挨拶があり、田村正衛新会長(昭和41年卒)からも、「心の拠り所となる同窓会となるよう努力します」との挨拶がされました。



で交流が続けられ、さらに歴史をついていけるといいなと思いました。

(島村) ひで子先生のご挨拶もいただき、講演もありました。中盤で、くじ引きで席替え。7〜8人単位で会話を弾ませました。続いて、抽選会。最後に、津中・津高等女学校・津高の校歌を斉唱。九十五歳の信藤節子さん(昭和11年卒)からは、「三重校の歌を消したくない思いで参加しています。」との感動的なご挨拶もありました。本

当に楽しい同窓会となりました。

名古屋同窓会

九月二十一日(土)名古屋東急ホテルにて、津高名古屋同窓会総会が開催されました。

ご来賓7名を迎え136名の卒業生が集いました。

今年度は、ブルー・ウィスカーズの皆様演奏で幕が開きました。

川喜田久様(40年卒)のエレキギターによるベンチャーズメドレー、現ブルー・ウィスカーズの皆様(46・48年卒7名)は、ビートルズメドレー五曲を演奏いただき大盛況でした。

恒例の〇×クイズでは、ご来賓の前葉泰幸津市長(56年卒)にお手伝いいただき、各テーブルを回りふれあい、一段とにぎやかなクイズ大会となりました。



した。

最後にブルー・ウィスカーズの伴奏で校歌を熱唱し閉会しました。

初めて参加した同窓生は、尊敬する先輩方に会うことができ改めて津高の卒業生であることを誇りに思っていました。

未参加のお友達をお誘い合わせの上、来年はさらに多数の参加をお待ちしております。(岩永紀子・S56年卒)

大阪同窓会

平成二十五年度の大阪同窓会は、十月二十七日(日)天王寺都ホテルで137名の先輩後輩が集い、例年と同様に賑やかな会となりました。

奥田務津高大阪同窓会会長、来賓の方々からの挨拶を頂戴した後、昭和三十八



年から十四年間、世界史・地理の担当として教鞭をとっていただき今は三十数年間スペイン在住の画家として活躍されている澤口友彌先生から話題満載の、且つウィットに富んだお話を拝聴し、続いて前葉泰幸津市長から「津高卒の市長が語る津市政」と題して興味深い講演をいただき、昭和20年卒の大先輩梅本和男様の乾杯の発声を合図に懇親会がスタート、「津高百三十年のあゆみ」のDVDが上映される中、そここで「話の花」が咲く賑やかな総会となりました。

指定席は最初だけ！直ぐに場内はまるで「大きなスクランブル交差点」の如く皆が渡り歩くいつもの見慣れた光景となり、所定の時間が瞬く間に過ぎ現役大学生の紹介と陳川・三重桜・津高の校歌を斉唱し最後に「ふるさと」の大合唱で来年の再会を約束し散会しました。

(上嶋秀一・S42年卒)

物 故 者

謹んでご冥福をお祈りいたします。

(平成25年10月1日現在) (敬称略)

旧職(15) 竹 田 友 三
旧職 山 中 一 史
陳川昭4 山 野 龍 一
昭6 平 尾 宗 弘
昭8 磯 田 佐 一
昭9 片 岡 誠 夫
昭9 増 田 栄 夫
昭11 速 水 勉 一
昭12 朝 光 義 一
昭12 吉 江 守 行
昭13 伊 藤 正 夫
昭13 中 島 晃 策
昭15 別 府 千 足
昭15 望 月 仁 美
昭16 北 村 嘉 文
昭16 黒 川 惇 一
昭16 森山(坂倉)勉
昭18 黒 宮 正 郎
昭18 小 林 安 夫
昭18 白 沢 謙 夫
昭18 松 永 典 夫
昭19 森 島 禎 夫
昭19 山 口 富士雄
昭20 草 川 長 久
昭20④伊 藤 邦 夫
昭20④院 田 次 郎
昭20④大角(西村)哲哉
昭20④小 柴 昭 三
昭20④坂 尾 正 夫
昭20④谷 憲 夫
昭20④別 所 祐己夫
昭20④松 永 嘉 元
昭20④望 月 孝 雄
昭20④柳 井 平 治
昭20④山 内 忠 雄
昭20④芳 澤 典 太
昭20④米 本 正 美
昭21 若 林 長 生

昭22 赤 塚 勇
昭22 坂 井 敏 昭
昭22 野 口 治 男
昭23 池 田 元
昭23 澤口(林)雅也
昭23 平 佳 高
昭23 藤 田 孝 一
昭23 正 岡 裕
昭23 溝 口 正 樹
昭23 三 藤 重 徳
昭23 吉 川 博
昭24 柄 田 昌 紀
昭24 工 藤 厚
昭24 服 部 圭 助
昭24 林 太 朗
昭20入三 藤 武 彦
昭21入中 山 義 一
三重桜大11 高野(浅野)純子
大15 木 村 ま さ
大15 田中(山田)定乃
昭3 高橋(立花)恒子
昭3 吉田(浅生)カヅ
昭4 中 根 ぬ 美 子
昭5 三宅(沢田)静
昭5 山口(小宮)由紀子
昭6 小 浦 (田中) 静
昭7 小 林 (小林) けい子
昭8 市川(田畑)愛子
昭8 濱口(岩田)かず
昭11 粥見(和賀)きみ子
昭11 小林(須藤)アヤ子
昭12 水谷(水谷)よしゑ
昭13 小倉(戸木田)美七江
昭13 西塚(中谷)芳子
昭13 松本(井村)美代
昭14 馬場(児玉)良子
昭15 福 岡 てる子
昭16 西川(西川)ふさ子

昭16 松田(鈴木)郁子
昭17 小西(賀来)麗子
昭18 西岡(谷)悦子
昭20 別所(伊奈)妙子
昭20④芦原(上條)久子
昭20④天野(川合)規子
昭20④高橋(奥山)静子
昭20④本 多 辰 子
昭22 阿部(松本)ひさ
昭22 泉 (鈴木) 幸
昭22 木下(多賀)美代子
昭22 坂井(中村)玲子
昭22 高本(齋田)禮子
昭22 野村(福田)和子
昭23 大野(松野)ゆき
昭23 黒宮(中西)澄子
津高昭24 太 田 等
昭24 小 倉 和 男
昭24 島 田 勉
昭24 進 信 彦
昭24 山 路 弘
昭25 伊 庭 洸
昭25 川 北 寛
昭25 柴 山 朗
昭25 鈴木(三宅)康夫
昭25 前 田 壽 夫
昭25 森 錦 一
昭26 伊 藤 哲 吾
昭26 岩 尾 研 吾
昭26 藤 村 光 男
昭28 高田(山口)禎子
昭28 松 中 克 巳
昭29 伊 東 順 次
昭29 伊 藤 正 子
昭29 加藤(内田)喜良美
昭29 紀 平 道 雄
昭29 中 田 健 司
昭29 中 谷 博 司
昭29 長谷川 光 雄
昭30 大 川 親 正
昭30 富 田 眞 敏
昭31 伊 藤 豪 治
昭31 加 藤 嘉 哉

昭31 川 井 忠
昭31 沢 口 博 吉
昭31 多 賀 輝 宏
昭31 野 呂 義 教
昭31 藤 田 隆 文
昭31 堀 義 彦
昭31 溝畑(梅原)薫
昭32 井 崎 清 彰
昭33 春日部 英 宣
昭33 佐 脇 信 一
昭33 藤 本 靖 人
昭33 別 所 祺 久
昭33 牧 戸 吉 夫
昭34 保泉(和田)治子
昭34 和達(大園)明子
昭36 谷 尚 憲
昭37 伊 野 盾 機
昭37 黒田(岸田)久美子
昭38 荒 川 照 夫
昭38 上 田 真 也
昭38 上 村 泰 彦
昭38 大 西 三 枝子
昭38 河 村 和 裕
昭38 小 林 芳 男
昭38 巽 幸 政
昭38 平 井 俊 良
昭40 市 川 孝 之
昭40 宇 野 雅 郎
昭43 保 田 憲 基
昭46 野 末 潤
昭48 野 田 雅 俊
昭50 池 村 敏 幸
昭50 小 林 馨
昭55 大平(関)浩子
昭55 久 保 慎一郎
昭55 中 村 和 司
昭55 松 島 敦
昭55 水 野 幸 弘
昭55 吉 田 昌 弘
平2 吉 岡 正 人

お知らせ

平成二十六年 度 同窓パーティー

日 時 平成二十六年八月二日(土)

午後三時より

場 所 津センターパレスホール五階
津都ホテル

テーマ「礎 ～ここから～」

担当学年幹事

昭和56年卒(代表 久志本忠彦)
平成5年卒(代表 北川健太郎)

平成二十六年 度 同窓パーティー

実行委員長

久志本忠彦(昭和56年卒)

平成二十六年 度の同窓パーティーは、昭和56年卒と平成5年卒が担当させていただきます。

今夏行われました二十五年度の同窓パーティーは、現役津高生のさわやかな部活発表と現役生に負けないOB応援団の熱気あふれるパワーに魅惑され、自分たちの中にも津高同窓生であることの誇りと熱を感じさせていただいた素晴らしい会でした。今の自分たちの礎は、まぎれもなく津高で過ごしたあの日々の中にあると、改めて思った次第です。

二〇二〇年、東京でオリンピックが開催されることが決まり、日本中に活

気が溢れてきました。招致プレゼンテーションでの「お・も・て・な・し」の言葉が印象的で、話題にもなっています。私たち津高同窓会来年度幹事一同も、この日本の心そして清新の気風を誇る津高の精神をもって、準備を進めていく所存です。来年度もまた、同窓生のみなさんとお目にかかり、互いの健康と活躍を喜び、過した時代は違ってもひとつになれる、そんな会を、提供できるように、スタッフ一同力を合わせて取り組んでまいります。

たくさんの方々の皆様の参加を心よりお待ちしております。

参加者募集

★第六回 学年対抗ゴルフ大会

学年対抗ゴルフ大会を開催します。ふるってご参加ください。

日 程 平成二十六年

三月二十三日(日)

場 所 伊勢中川カントリークラブ
(津市二志町井生)

参加費 一二、五〇〇円

(プレー費・昼食・コース売店・

パーティー代・会費含む)

キャディは別途 三、一五〇円

定員 百六十名(定員になり次第、切)

※厳守 各学年三名以上十六名以内

※練習ラウンドの設定あり

※お問い合わせ・お申し込み先

津高同窓会事務局

TEL 059-229-7331

★バリとボロブドゥール

(インドネシア・世界遺産)の旅

今年四月に予定しておりました旅行が諸事情により、来年四月に延期となりました。

インドネシアのバリと、千年の時を超えた世界最大級の仏教遺跡、ボロブドゥールを中心に観光。癒しのホテルアマンジョに滞在し、ゆったりとした時を楽しみたいと考えています。同窓会の旅行は、ちよっと……とためらってみるみなさん、是非一度参加してみてください。楽しかった、また次も思っていた旅にしたいと思えます。参加ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

TEL 059-229-7331

学年同窓会

★昭和57年卒学年同窓会

日 時 平成25年12月30日(月)

午後3時

場 所 ホテルグリーンパーク津
(アスト津 6階)

※平成27年度同窓会総会・パーティーの幹事担当学年となる事に先駆けて学年同窓会を開催します。

★昭和56年卒学年同窓会

日 時 平成26年1月3日(金)

16時30分受付 17時開会

場 所 都ホテル(津市大門7-15)

★平成24年度大阪同窓会

第四十六回大阪同窓会は、平成二十四年十一月十八日(日)に、天王寺都ホテルにて122名の参加で開催されました。昨年の会報に掲載出来ませんでしたので、ここに報告いたします。

事務局 だより

○会報五十一号をお届けします。今回二万四千八百部の発行となりました。○住所異動の際は、卒年・名前・新住所をお書きの上、必ず事務局までお知らせ下さい。葉書・FAX・メールにて受け付けております。

○事務局開局日、月・火・水・金曜日午前九時十五分午後四時十五分
お気軽にお立ち寄りください。

○ホームページは、日々更新しております。最新情報は、是非ホームページをご覧ください。

○会報は、ホームページにも掲載しています。今後、会報は、ホームページでご覧になっていただき送付不要にご協力いただける方はメールにてご連絡ください。

津高同窓会の
ホームページ

http://tsuko.jp/

メールアドレス
office@tsuko.jp

TEL・FAX 059-229-7331



平成25年度同窓パーティー